

# 【概略】

## 平成26年度 秋田市財務状況把握の結果概要について

### 総合評価

**債務償還能力**〔地方債等の債務の大きさとその償還原資を獲得する能力〕

問題なし

実質債務月収倍率(②)が低いことから、債務の水準に**問題はない**。  
また、行政経常収支率(④)が高いことから、償還原資の水準に**問題はない**。

**資金繰り状況**〔経常的な収支と積立金等の備えからみた資金余裕状況〕

問題なし

行政経常収支率(④)が高いことから、経常的な収支の余裕度の水準に**問題はない**。  
また、積立金等月収倍率(③)が高いことから、資金繰り余力の水準に**問題はない**。

### 財務指標

| 指標   | ①債務償還可能年数<br>〔 $\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収支}}$ 〕 | ②実質債務月収倍率<br>〔 $\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収入} \div 12}$ 〕 | ③積立金等月収倍率<br>〔 $\frac{\text{積立金等}}{\text{行政経常収入} \div 12}$ 〕 | ④行政経常収支率<br>〔 $\frac{\text{行政経常収支}}{\text{行政経常収入}}$ 〕 |
|------|--|--|--|---|
| 問題なし | 9.9年   | 12.8月  | 4.0月   | 10.8%   |
| やや注意 |  | 18月  | 3月   | 10%   |
| 注意   | 15年  | 24月  | 1月   | 0%  |

問題なし  
(債務系統)

債務償還能力

問題なし  
(収支系統)

資金繰り状況

問題なし  
(積立系統)

### 今後の見通し

今後の見通しについては、提出していただいた収支計画(平成32年度)に基づき実施したヒアリング等の結果を記載しています。

#### ■債務償還能力

- 行政経常収支率は、10%未満でありやや低く、かつ、債務償還可能年数が15年以上と長いことから、収支低水準の状況であると考えられる。
- 実質債務月収倍率は、18月未満であり低いことから、問題のない水準であると考えられる。

#### ■資金繰り状況

- 行政経常収支率は、10%未満でありやや低いものの、0%を上回っていることから、問題のない水準であると考えられる。
- 積立金等月収倍率は、3月未満でありやや低く、かつ、行政経常収支率が10%未満とやや低いことから、積立低水準の状況であると考えられる。